

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成26年度第2回スポーツ推進審議会
開催日時	平成26年11月27日(木) 18時30分～20時10分
開催場所	高松市役所 3階 33会議室
議 題	会長・副会長選任について 高松市スポーツ推進計画について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	内海委員、大西委員、十河委員、田中委員、田村委員、西山委員、野崎委員、花房委員、松本委員、森委員、渡辺委員（欠席0名）
傍 聴 者	0 人 （定員 5 人）
担当課および 連絡先	スポーツ振興課 839-2626

会議経過及び会議結果

【会議の経過】

- (1) 各委員の紹介。
- (2) 宮武創造都市推進局長のあいさつの後、高松市スポーツ推進審議会条例第6条1項の規定に基づき、委員の互選により、会長には野崎委員、副会長には松本委員、内海委員が選ばれた。
また、会長代理の順位について、松本副会長を第1位とすることを会長が決定した。
- (3) 事務局から会議成立の報告の後、会議の公開について委員会に諮り、審議した結果、公開とすることを決定した。
- (4) 事務局から議題「高松市スポーツ推進計画」について、説明した。
- (5) 報告事項
高松市スポーツ振興基本計画の実施状況について、報告した。

委員から意見を聴取した。

項目ごとの主な意見、質疑等は次のとおり。

議 題

議 案

高松市スポーツ推進計画について

会議経過及び会議結果

○高松市スポーツ推進計画について

【A委員】

事務局から説明のあった、スケジュールとアンケート内容について、今回は、各委員さんに意見をいただき、今回の意見をまとめて次回の審議会に提示したいと思う。

今回、いただいた意見を基に2月の審議会ではアンケートの内容を固め、4月のアンケート実施に向けて準備していくという形になる。

【B委員】

スケジュールの中で、上旬、下旬と書いているが、日程の確定はできないか。

【事務局】

各委員さんの日程調整を行う必要があるし、2月については、諮問ということで市長の日程を抑えないといけなないので、今の段階で、日程を決めるのは難しい。今後、調整をして決定していきたい。

【A委員】

現在の基本計画は、数値目標の達成に向けて実施している。

基本的な大きな項目や構造的な内容を考えながら、今回の達成率を踏まえて、新たに計画を立てていかなければならない。それに向けて高松市民の意見を聞くためにアンケートを実施する。

これまでのスポーツ基本計画の構造的な仕組みや大枠等を考えながら、また、各委員さんがこういう部分を充実しなければいけないのではないかと踏まえて、市民の声を聞くにあたり、どういった質問がふさわしいかの意見を出していただきたい。

【C委員】

前回のアンケート調査のやり方について、3,000名の抽出に対して、各年代層の結果が、それなりの人数がそろっているが、無作為抽出の選び方についてはランダムに選んで行ったのか。それとも、アンケートが意図を持って実施したのであれば、無作為抽出をすることで、このアンケートの信頼性があるのかを教えてください。

それと、3,000名にアンケートを出し、回答率が36.33%という数字が出ているが、高松市民の全人口に対して、この数字が妥当なのかを教えてください。これが基本になって、いろんな形で今からの基本計画の基礎になるアンケートなので、教えてください。

【A委員】

回収率に関しては、アンケートで多くの情報を取りたいのだが、多くなればなるほど回収率が下がるというところがある。回収率を上げようとする、ある程度シンプルなものにしたら、回収率が上がるのではないか。

会議経過及び会議結果

【事務局】

アンケートの妥当性については、どんなアンケートでも、一般的にサンプル数が100を超えれば統計的には認められるのではないかと経験的に学んでいるので、少なくとも回答数を100、あるいはそれ以上集めたいと思っている。標本数の3,000というのは、他の課がやっているサンプル数を標準にしている。それらの回収率も、35%前後の回収率で、一般的な回収率と比べると高い数値になっている。そのなかで、42万の人口で、回答数が1,000件くらいあれば、ほぼおおまかな代表的な意見は拾えているのではないかという数字である。無作為抽出というのは、いろんな条件設定ができる。今回の質問の状況からすると、市民全般に意見を聞くということなので、サンプルとしては、無作為の方がよりの確ではないかと思う。そのうえで、回答者に多少偏りがあるので、アンケートを分析する際に、回答者の年齢層がどこかを集計する際に参考にしなければいけない。

また、どこかの問題を特化して調べたいという場合には、個々の質問に対して、何歳の人に答えてもらうというようなことをお願いするか、その人の属性を最初に答えてもらうので、分析をする際に、年代別に分析をするなど、分析のほうで、より細かいデータを取るようにした方がいいのではないか。

【D委員】

年々市民フェスティバルの参加者が減っている。これは、競技のあり方もあると思うが、はたして市民のスポーツを推進するスポーツ推進委員が市民の中にどれだけ食い込んでいっているのか。地域でもスポーツをやっている人はスポーツ推進委員を知っているが、やっていない人はほとんど知らないのが現状である。

アンケートの中で可能であれば、あなたの校区のスポーツ推進委員を知っていますかという質問を入れ、このような制度があることを市民に知らせるべきではないか。

【E委員】

今も質問が入っているが。

【D委員】

質問はあるのだが、スポーツ推進委員が、どういうことをしているかわからない人もいるので、もう少し、スポーツ推進委員に対する質問をいれてもいいのではないか。

【A委員】

事務局のほうで、内容的に加えられるようなら加えてもらい、提案してもらいたい。

全人口からすると、スポーツをする人口はそう多くない。もっとスポーツに興味関心を持ってもらうことが、スポーツ振興の一番大きなことだと思う。スポーツ推進委員など、様々なスポーツに関わる方々は御苦労されているが、スポーツに全く興味がない方には全く認知されないという部分がある。計画のイメージからすれば、全くスポーツに興味がない方にどれだけ興味を持ってもらえるか、いかにスポーツに足を向けてもらえるか。そういう施策を考えていくのが、大事になってくる。そういう方向で各委員さんでも検討してもらいたい。

会議経過及び会議結果

【事務局】

現在、スポーツ推進委員を知っていますかという質問だけなので、もう少し掘り下げたアンケートにして、次回の会に提案していきたい。

【D委員】

スポーツ推進委員では、ニュースポーツを中心にスポーツの経験者を増やしているのですが、もう少しその輪を広めていただきたい。市民スポーツフェスティバルでも、子どもを参加させるときに、スポーツ少年団に入ってる子以外を誘ってくださいと言っている。スポーツ少年団の子どもは、週に1回は練習をしているので運動をしているが、それ以外に入っていない子どもを取り込んで参加してもらおう。その時に一番重要になってくるのが、スポーツ推進委員ではないか。地区体協の会長は末端までわからないので、スポーツ推進委員の協力が必要になってくる。知ってますかの質問だけではなく、もう少しこういう仕事をしてますということを市民に知らせてもいいのではないかと。そうしないと40%の達成は無理ではないかと思う。

【C委員】

前回のアンケートを実施した際の、アンケート実施の際の理由書の、文言がどのようなものになっているのかを教えてほしい。以前は、スポーツという定義がどうしても競技スポーツをイメージしていた。たとえば、散歩などの日常生活動作を含めて運動であると定義したほうがいいのではないかと。運動をしている自覚がないという人に、買い物に行くのに自転車に乗るのも運動だとして伝えるのであれば、スポーツや運動の定義を細かく示さないといけない。その行為がこれに該当しているというような問いかけにしないと、答えが若干変わってくる。よく動いているが、それをスポーツ・運動ととらえていない人が多いのではないかと。アンケートの内容よりも、初めの聞き方やスポーツ・運動の定義を明確にしないといけないのではないかと。

【事務局】

前回のアンケートの時もそこまで細かい定義を示してなかった。「この調査は、市民の皆様のスポーツに関する意識と活動の状況を知り、高松市スポーツ振興基本計画の基礎資料として活用するものです」と簡単に説明を入れているだけだった。今回の意見は貴重な御意見として、お願い文の内容も工夫をしていきたい。

【C委員】

何か例を出したり、回答者が、簡単な運動もできてないからしなきゃいけないと発見してもらえるような質問にしてはどうか。また、これぐらいの運動ならやってるといえるようなことがわかるようにした方がいいのではないかと。

健康づくりの指標があるので、そういうものを参考にしてもいいのではないかと。日常生活動作をする量を一日にこれぐらい、一週間にこれぐらいしたら、どの程度の運動をしたことになる、という風な書き方をしたら、もう少し明確に出てくるのかなと思う。しかし、あまりたくさんを聞きすぎると、答えにくくなる。

最低限、計画に必要なベースになるスポーツ・運動の定義を明確にする必要がある。

会議経過及び会議結果

【事務局】

基本計画のP3にスポーツの定義を掲載している。

これをふまえて、例等を入れながら、願いの文章を作成していきたい。

【B委員】

最終ページに別表2を付けているが、別表2まで見ずに自分には関係ないと思う人もいるので、別表をもっと前面に出して、最初の文章で理解できるようにしたほうがいいのではないか。

【C委員】

最初になぜこのアンケートが自分のところに送られてきたか、ということ、を、柔らかい表現で記載した方がいいのではないか。

【事務局】

あまり定義が固すぎると敬遠されるので、わかりやすい表現にするように考えていきたいと思う。

【D委員】

ウォーキングも立派なスポーツである。日曜日にはサンポートでウォーキングをしたり、ランニングをしたりしている人が多い。散歩も含めたものがスポーツだということを前面に出していかないといけないのではないか。やっぱりスポーツというと、競技スポーツをイメージしてしまう。

【C委員】

ラジ体操とかも運動にいれればいい。

【F委員】

アンケートの質問は、そんなに多くの質問はいらないのではないか。アンケートの持つ意味というところで見れば、スポーツをどうとらえるかが大事になる。スポーツをなにもやってない人にスポーツをしてもらおうとか、あまりやってない人にもう少しやってもらおうという意味で40%にしようということか。

【A委員】

スポーツの振興については、スポーツ人口の裾野を広げよう、幅広くやってもらおう、少しでも高いレベルで意味のあるスポーツ活動をやってもらおうということでやっている。前回29.7%だった実施率の数値を、目標に挙げた40%になっているかどうかということを見るために、アンケートを実施する。

前は、アンケート結果でスポーツをやっていない人が、スポーツをするにはどうしたらいいかという考え方で、計画を作成していた。

【F委員】

全然やってなかった人がスポーツをするようになった場合に、60%や70%になるかもしれない。

【A委員】

計画の策定には、必ず、数値目標を載せようという風になっている。この計画を立てる時も40%は無理ではないかという声も上がっていた。

会議経過及び会議結果

【G委員】

普段、スポーツをやっている人たちは、言わなくてもやっている。やってない人に、やってもらえる環境づくりなどをするのが難しい。前回の策定時には、やってない人たちにスポーツの良さをどうやって伝えたら伝わるのかをいろいろ議論した。

今回、アンケートに答えた人たちが、スポーツの必要性をどれぐらい大事に思っているかを聞いてもいいのではないか。必要性については、人それぞれで違いがあると思う。

スポーツの実施率が上がったということは、人口も増えているということになるので、スポーツを始めて得たものがあるのではないか。新しい仲間ができたとか、病院に行く回数が減ったとかのメリットがあるのではないか。もし、アンケートの中でそのメリットについて、拾えるのであれば、スポーツを始めるきっかけづくりのひとつとして、仲間づくりの場などを提供すれば、やっていない人始めるようになるのではないか。アンケートの中にスポーツの必要性、スポーツを新たに始めたことで得たものを聞く質問をいれてほしい。

【H委員】

スポーツの定義は計画のP29に掲載している。今回のアンケートを実施する際に、この定義を生かしていくかどうかを明確にしておく必要がある。その中で、「応援や運営などのサポートを含めた広範囲の活動を指す」となっているので、自らがスポーツをしなくても、審判にいたりすることが、この広範囲の活動の中に含まれていることを明確にしておかなければいけないのではないか。又は、今回はそのような内容を広範囲の活動とは別にするのか。

それと関連して、アンケートの中のP4に記載のある、今回新たに追加されている「スポーツ観戦について」の質問は、プロスポーツの応援に行ったとか、ボランティアをしたということで関連をしている。

しかし、基本情報の次にこのスポーツ観戦の項目がくると、びっくりするので、個人的な内容のP5の内容を先に聞いておいて、次に観戦について等の質問に変えた方がいいのではないか。

また、アンケートのなかで、地区と地域が混在しているので、どちらかに統一するべきか、それともそれぞれに言葉に意図があるので、統一せずにそのままにした方がいいのかを検討してもらいたい。

それと、前回の基本計画の課題について、検証する必要があるのではないか。課題を検証せずに、アンケートを実施するのは、少し急ぎすぎではないか。前回の計画の課題がいくつかあると思うので、課題をどのように推進できたのかということを検証する必要があるかと思う。

【A委員】

H委員から、指摘のあった、課題の検証については大事になってくると思う。後程、説明予定にしていた報告事項の、高松市スポーツ振興基本計画進捗状況について、先に説明をお願いします。

【事務局】

報告事項 高松市スポーツ振興基本計画進捗状況の説明

会議経過及び会議結果

【A委員】

40%の目標だけでなく、さまざまな施策で数値目標をあげて、それに向けて取り組んでいくということは、今の行政のスタイルになっており、数値目標をしっかりと出すということ、それに向けての成果を出すという形になると思う。

市民スポーツフェスティバルは大きなイベントでさまざまな各種団体の方々がつながりあって実施しているので、なかなか改革・改善をしていくということは難しいところはあると思う。市民スポーツフェスティバルは東四国国体を契機に始めた大会である。東四国国体のときと同じように、2020年に向けて機運を盛りあげたり、新しい目標とか、位置づけ、意味づけをして工夫していけたらと思う。大会に参加するのは同じ人ばかりで、新しい人が増えていないので、参加者数がうまく付いてきてない。今回は、前回の課題を検証していきながら、最初の基本方針や基本施策から新しい形にしていける。

【D委員】

いろいろな施設で行うイベントの時に、交通弱者に対する配慮ができていない。車で行く人は問題ないが、車に乗らない人をいかにして参加してもらおうか、という努力がされてないのではないか。市総合は駅から近いが他の施設は、公共交通機関から、離れているところが多いので、最寄りの駅から無料でシャトルバスを運行させたりなどの、努力をしてほしい。そうしないと家庭にいて普段運動しない人や、車に乗らない人は、広報でイベントを知っても参加しないと思う。屋島陸上競技場ができた時に、イベントをする場合、ことでんに乗ってきたら割引するとか、思い切ったことをしたほうがいいのではないか。その予算については行政が補助して行うということが必要ではないかと思う。

【A委員】

広報等で周知をしてもなかなか参加者が集まらない。予算的な面はあると思うが、アクセスを良くするような便宜を図ることも必要ではないか。

【F委員】

近所の人たちとラジオ体操をやっている。そういうことを行政レベルでできるようになれば、スポーツをする人が増えていくことになるのではないか。体力づくりや、健康づくりができるように地域でチームを作って、そういう対策に取り組むのも一つの方法ではないかと思う。

【A委員】

最近では、地域の再生に関心があるので、地区体協や小学校区等で、できることを全体で探っていく必要がある。スポーツ振興課に所管する部署だけでなく、いろんなところで協力体制をとりながらやっていくことが大事である。

【I 委員】

大阪マラソンを走り、神戸マラソンはスタッフで参加をしてきた。コース上の地域の方が、ボランティアで参加をしていた。水を配ったり、ゴミを拾ったりするボランティアもいれば、応援隊のボランティアもあって、いろんな団体の人が出てくれて、大会を盛り上げていた。

アンケートの項目の中に、高松市でイベントをやるときにボランティアで参加したいですかとかを聞いてみてはどうか。地元の年配者など、地域の温かみがあれば、大会も変わってくるのではないかな。

【A 委員】

以前行っていた、屋島一周のマラソン大会があるときには、近隣の地域の人もお手伝いをしていた。そういう輪が広がっていくと思う。

スポーツの定義については、応援や運営のサポートまで含めるところをどうしていくのか。市民のなかで、支えるスポーツというものが、応援やボランティアに参加することで、自分がスポーツをしているという認識を持っていないのではないかな。

アンケートの順番で、基本情報から、スポーツ観戦に行くのは私も違和感がある。ボランティアの質問のところでは文字数が増えるのはどうかと思うが、ボランティアの中にはスポーツを応援することも入ることを記載した方がいいのではないかな。

また、スポーツの行事については、記入してもらうような欄を設けてもいいのではないかな。創造都市として、芸術祭などのいろいろなイベントを行っているが、そのイベントと絡めてスポーツにどういうことを期待しますか？これからの高松の発展にとってどのようなスポーツをイメージしますか？ということを書いてもらうのもいいのではないかな。そういうものを活用しながら、スポーツ指導者やスポーツに関わる人たちも、実はスポーツをやっていることになるということの認識を広げていけるような活動をやっていると、広がりもでてくるのではないかな。スポーツ指導者は、まじめな人が多い。これからは、手伝ってくれる人をどんどん増やして、みんなでやろうというような流れを作っていくことが大事である。

【J 委員】

昔に比べたら、スポーツの数が増えて、広がっている。ラジオ体操は、どの競技にいてもやっているし、だれでもすぐにできる。子どもの教室はシンプルなものが一番いい。

教室にくる年配の人は、歩いて教室にくるだけでも運動になっている。その人たちは、終わったあとの食事とおしゃべりを楽しみにきている人もいる。人を引っ張り出す方法は、いろいろあるが、人のつながりや口コミが大事ではないかな。広報に掲載しても、なかなか人は集まらないが、通勤族の人は広報を見てきてくれる。参加者のターゲットが同じ人なので、いろいろなスポーツ団体で取り合いをしているので、トリムやスポレク祭等のような、一つのイベントにきたら、いろいろなスポーツができるような場所づくりが必要ではないかな。また、子どもがくると親や祖父母と一緒にくるので、子どもに魅力のあるイベントをしたらいいのではないかな。

会議経過及び会議結果

【A委員】

手軽であることや、ある年齢層だけでなく、幅広い年齢層が参加をできる工夫をすれば、人集めの大きな要素になるのではないか。

【E委員】

アンケートのことですが、P6のところ、地区体協やスポーツ推進委員のところ、できれば、行事に参加したことがあるかという項目を追加してほしい。

【事務局】

追加したものを、次回、案で出させてほしい。

【E委員】

その地方の方言のラジオ体操がある。讃岐弁のラジオ体操をつくる取組があればおもしろいと思う。

【A委員】

いろいろ企画してやっていけばいいと思う。

【H委員】

公民館にいけば、健康福祉的な教室をやっている。それは高齢者の方が中心で、その人たちもスポーツだと思ってやっている。競技力向上だけでなく、生涯スポーツに渡ってというように、市体協も2つの路線で動いている。行政が、医療費削減というようなものを取り組むように、スポーツ振興課や他の課が相乗りをして、柔軟に対応したほうが、お互いがうまくいくのではないか。

【事務局】

スポーツの定義ところで、現在の案の別表2に記載しているものでは、矛盾が出てくるので、きちんとスポーツを定義した上で、聞き方について、ボランティア的な部分や活動的な部分をスポーツとしてとらえるのであれば、どういう風な組み方をするかというところで、改めて、案を出させてもらいたい。

スポーツ行事についてどのようなことを望んでいるか、というところで、聞き方についてや項目を挙げて聞いたり、欄を設けたりする質問に調整をする。

ボランティアの活動について、P4の一番下のところで、ボランティアを行っていないという項目を1つだけ挙げているが、どういう風なボランティアだったら参加できるかとか、もう少し掘り下げた聞き方が必要でないかというとらえ方でいいか。このような形で整理して、次回、審議会に提案する。